

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092800145		
法人名	ケア・サービス 株式会社		
事業所名	グループホーム かえで中間		
所在地	〒809-0003 福岡県中間市上底井野1675番地1	TEL	093-246-5515
自己評価作成日	令和05年01月24日	評価結果確定日	令和05年03月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	令和05年02月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設し3年目になるグループホームです。  
 ご利用者様が日中集うリビングには掃き出しの大きな窓があり、南向きで日当たりもよく、黒松やつつじ、きんもくせいなど四季折々の日本庭園を望むことができます。  
 「看護小規模多機能型居宅介護りんどう」を併設し、グループホーム内にも看護職員を配置、ご利用者様の日々の健康不安や心身の異変などに手厚い対応を行うとともに、まるでご自宅にいるかのような環境を整え、お看取りまでを実施しております。  
 当法人は数手に本社をおく17年の実績があり、理念は「ぬくもり、やさしさ、安心」です。  
 ご利用者様中心のケアを看介護スタッフ全員でご提供できるよう努めてまいります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松や金木犀、つつじが見事な日本庭園の中に、看護小規模多機能型居宅介護と併設の定員9名のグループホーム「かえで中間」がある。「ぬくもり、やさしさ、安心」を理念の柱とし、利用者が重度化しても最後まで安心して生活できる「終の棲家」である。ホームドクターの定期往診が整い、常勤看護師と介護職員が連携し、利用者の小さな変化も見逃さず、24時間利用者の健康管理に取り組んでいる。新鮮な食材を取り寄せ、職員が交代で作る料理は、味や彩り、盛り付けに拘り、利用者と職員が談笑しながら食事する様子は楽しそうで食欲増進に繋げている。コロナ感染症予防対策で、外出や地域交流が休止状態であるが、日本庭園の中を散歩したり、ドライブに出かけ、利用者の気分転換を図っている。職員は、優しく利用者に話しかけ、利用者が明るい笑顔を取り戻す様子を見守る家族からは、喜びと感謝の気持ちに包まれ、利用者や家族と深い信頼関係を築いているグループホーム「かえで中間」である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ぬくもり・やさしさ・安心」を理念に、職員は、家族のように信頼を頂けるケアを心がけて行う	職員会議や朝の申し送り時に理念(ぬくもり、やさしさ、安心)の意義や目的を職員間で話し合い、職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解して、常に理念を意識して、利用者本位の介護サービスの提供を、職員全員で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントに参加したり組内で発行される広報誌をいただいて、新設施設の生活場所としての支援を受け交流を行っている。また地域については、年会費をお支払いし、区への貢献を図っている	コロナ対策の中で、地域の行事や活動に参加する機会が少なくなっているが、地域の広報誌で地域情報を得て、参加出来る行事には参加している。町内会に加入し、地域住民との交流を図るため、買い物や神社に出かけ挨拶や立ち話を通して、地域の方と交流出来る関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	レクリエーションの一環としての近隣での散歩や買い物等日常生活を行うことで、地元の方にも認知症への理解を深めていただく		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催を延期している中、議員の方々に持ち回り資料を配布し、現在のグループホームかえで中間の現状報告としている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、ホーム運営や取り組み、利用者情報を記載した議事録を委員に配布し、電話等で地域情報を聴き取っている。運営推進会議の発展が、ホームの成長に繋がるので、今後は、参加委員の増員を図ることを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の諸手続きや、対応に工夫が必要な事例の相談など、行政とこまめに連絡を取ることで、行政独自のサービスやケアの現状や方針を知ることが出来る	管理者は、ホームの空き状況や事故等を行政に報告し、介護の疑問点や困難事例等の相談を行い行政と連携を図っているが、現在はコロナ禍の中で自粛している。コロナ対策以前は、運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状を理解してアドバイスや情報を提供して貰い、協力関係が築かれていた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に行っているカンファレンスにおいて、利用者各人の身体的、精神的情報を共有して、課題分析を行い繰り返しケアに問題点はないか見直す	身体拘束の職員研修を職員会議や内部研修の中で実施し、身体拘束が利用者にも与える影響を職員間で話し合い、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証し、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行き過ぎた介護や大声での声掛け、過剰な服薬による心身の自由を奪うなど、虐待にあたるケアについては、カンファレンス等において把握し防止に務める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各人がまもられるべき日常生活を送る権利について成年後見人制度等権利擁護についての社内研修を管理者が行う	権利擁護の制度の資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から相談があれば、分かり易く説明し、関係機関に相談して利用者の権利が、損なわれないように取り組んでいる。日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員会議や内部研修会の中で制度の研修を行い、職員はある程度理解が出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際し、事前に現在のサービス状況の説明や施設内見学を行い、現在の利用者やご家族の困りごとを聞き取りしうえて、契約を行うようにしている。解約時にも、今後のことをともに考え、利用者のご家族の安心する選択肢を提供するようにしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での資料や、日々の行事、ケアの実施状況を、実際にご家族に見ていただいたり短い時間の面会などを通して、率直な意見を反映できる機会を作っている	ホームの日常生活の中で職員は、利用者の思いや意向を把握し、家族面会時に利用者の希望や健康状態、生活状況等を報告し、家族からは、意見や要望、気になる事等を聴き取り、ホーム運営や介護計画作成、利用者の日常介護に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者や管理者は、実際に職員と同じ仕事を共有したり、話しあう時間を持つことで、様々な意見や要望を聞き取り、貴重な意見として今後の運営に活かす	毎月1回定期的に職員会議を開催し、職員が話し易い雰囲気の中で、意見や要望、提案等を聴き取り、ホーム運営や業務改善に活かせるように取り組んでいる。毎日の申し送り時に職員間で気付きや心配な事を話し合い、管理者に相談して解決に向けた取り組みを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者は、勤務表を作成するうえで、現場での勤務をともに実施したり、カンファレンスなどを通じて、職員の意見を聞き取ることで、実際の職場環境の改善を整えるように心掛けている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関しては、性別や経験、年齢だけにこだわらず、まずは面接にて本人の意欲や勤務希望を確認し、できる限り意に沿った勤務環境を提案するようにしている	管理者は、職員の特長や能力を把握して、適材適所に人員配置し働き易い職場環境を目指している。職員の募集は年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や働く意欲を優先し、採用後は外部や内部の研修に参加して、介護技術の向上に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンスや日々の話し合いにて、携わると利用者者が、等しく人権を持ち、守られるべきであることを、共有の基本的理念として学ぶようにしている	利用者の人権を尊重する介護の在り方を、職員会議や朝の申し送り時に話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者の尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。また、「ぬくもり、やさしさ、安心」を理念の柱として、職員は常に意識して日常介護の中で反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日のケアの実情を、現場に必ず顔を出すことで把握するようにしている。また、職員にも希望に応じて社外の研修参加の機会を設け、介護の質の向上に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍による感染予防の観点から、同業者に限らず多くの交流は自粛しているが、利用者の紹介や連絡事項の中で、情報交換や他の事業所の取り組みを伺うことで、かえでの運営の質の向上に役立てるようにしている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅時や入院時とは違う新たな環境の変化として、本人が一番戸惑うときなので、言動からのサインに着目し、安心して暮らせる場所だと感じていただけるようにしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にグループホームでの生活をお伝えし、入所施設の堅苦しいところではない、新たな生活基盤となるように紹介している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前後の見学や電話での問い合わせの際に、一番の困りごとが伺えることが多く、その時の声を参考に、アセスメントを実施。早めにモニタリングを行い、本人に適したケアを行うように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の好きな話題や楽しみを把握し、イベントをともに楽しんだり家事の手伝いを一緒にすることで、お互いの関係を一方的なものにならないようにする		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの電話や手紙、面会希望に関して、できる限り間を取り持ち、イベントでの写真などもお見せすることで、利用者のご家族の距離が離れた関係にならないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に訪ねてこられたり安否を尋ねる遠縁の親戚や知人に対し、キーパーソンの方の承諾を得て短い時間の面会や電話での交流を支援している	コロナ対策の中で、日常の面会や外出が限定されているので、電話や事業所便りで利用者の状況を家族に報告し、家族の質問や要望には、丁寧に答えている。また、ホームで仲良くなった利用者同士の関係や職員との信頼関係も、新しい馴染みの関係として大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	前年度までは同じような感性のご利用者様での性格や生活歴の配慮に努めながらのレクリエーションだったが、最近のご利用者様全員でテーブルを囲みスタッフも交えたレクリエーションが増えてきている		
24		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の方についても医療機関と随時連携を図り、状況を確認、ご家族とも密に連携を図り、入院中のお洗濯の支援等行い、また、医療ニーズが高くなってきたご利用者様については、隣接する看護小規模多機能型居宅介護施設の利用をご案内している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフとのコミュニケーションを通して、個々の生活リズムや思考を把握し、スタッフ全員が共有できるように努めている。意思の表出が困難な方は、表情、雰囲気や察知できるようなスタッフばかりであり、その状況を少しのことでもスタッフ同士共有するとともに、ご家族にも意見をお伺いしている	ホームの暮らしの中の会話から、職員は利用者の思いや意向を把握し、実現に向けて取り組んでいる。意向表出が困難な利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、職員が利用者によく寄り添い話しかけ、表情や仕草を観察しながら、利用者の思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴の違いを念頭に、スタッフは本人やご家族からの情報や既往歴にも注目し、情報を共有している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報のデータの把握すると同時に、現時点でのお困りごとを対話により見つけていくと同時に、全スタッフで共有し、アセスメントを実施するようにしている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍に伴い、多種職による担当者会議開催が困難な状況は継続しているが、日々の生活の場での気づきや受診時の情報など、ご家族来所時の話をまとめ、ケアプランに活かしている	職員は利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で検討し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。利用者の状態変化や重度化が進むと、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中での気づきや変化、本人の表情や雰囲気、発言を細かく連絡帳へ記載し、スタッフ間で共有またケアプランに活かし、アセスメントからケアの見直しにつなげている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてご利用者様の嗜好品など、代理購入させていただいたり、通院支援後のご家族への報告、またコロナ禍ではあるが、短時間での面会も許可しており、ご家族も交えたケアができるような環境作りに取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の神社の参拝など、コロナ禍で密にならない範囲内で心身の活気につながる行事を取り入れるようにしている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診同行、訪問診療、必要に応じての専門家の受診、ご家族様も交えての個々が安心して過ごせるための心身健康維持を目指している	入居前に利用者や家族の希望を優先して話し合い、主治医を決めている。以前からのかかりつけ医の受診は、職員が対応し結果を家族に報告している。協力医療機関医師による定期的な往診と看護師、介護職員が連携し、24時間利用者の健康管理に取り組んでいる。併設の看護小規模多機能の協力で24時間の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護職員4名となっているが、個々の服薬管理、健康管理、病院受診同行、また介護スタッフへのアドバイス等にも重きをおいている。また、上記に伴い終末期から看取りまでのケアも実施できている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに病院に情報提供を行い、ご家族だけでは困難な場合も含め、ご家族様にも安心していただけるような支援を実施している。また入院中もこちらより病院へ状態を確認し、退院をスタッフ一同でお待ちし、病院へも治療が終了した場合、どのような状況でも必ずお受けし、お迎えにいくよう努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、また医師の回復の見込みがないと診断された場合はご家族へ最後の場所をどこにされるかという話を何度もさせていただき同意を得る。またお元気なうちからご利用者様のご希望を聞いたりする場面があればそれを記録、ご家族にもお伝え。また、病床逼迫期の救急搬送困難な場面もあったこともお話ししたりしながら、4名の看護師がいる中でご家族、ご本人にご満足いただける最期の場所の環境づくりに取り組んでいる	ホームで出来る支援と病院でしか出来ない支援を契約時に、利用者や家族に説明し承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、併設の看護小規模多機能への転居も視野に入れて家族と話し合い、利用者の終末期が安心して過ごせる環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	4名の看護師の中で夜勤・日勤に関わらず全員が急変時の対応ができるようマニュアルを作成、またオンコール制度は設けていないが介護スタッフがすぐに看護師と連携がとれる環境を作っている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策で保存食・保存水の備蓄を行っている。前年度実施できていない地域、地元有識者も含めた防災訓練、近隣住民との協力体制を再確認していく	コロナ禍の中で、非情災害を想定した避難訓練を自粛しているが、マニュアルを基にシミュレーションに取り組んでいる。非常災害を想定して食料や飲料水、非常用備品の備蓄を用意している。近隣住民と防災協力体制の構築を検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、職員も含め、個々のあるべき人権を尊重し、法人理念を掲示し、常にスタッフが接遇への施設を培うように心がけている	利用者のプライバシーを守る介護サービスについて、職員会議や内部研修の中で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮したサービス提供に取り組んでいる。また、言葉遣いに注意し、あからさまな介護にならない支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、食事内容を選んだり、入浴時の服の決定、レクの自由参加を支援するなど、小さな選択の機会を作るようにしている。またご利用者様に先の行事を楽しみに待っていただくという意味で、先の行事内容を掲示し、希望をもっていただくよう努力している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きなくくりであるホールでの毎日のリハビリ体操やレクリエーション活動は、本人の気分や体調で参加・不参加を決めていただき、本人の自由な時間の過ごし方を優先している。また、定期的な訪問理美容も、本人の意思を尊重し案内している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で、なおかつご本人のお好きな服や、動きやすい服、似合う服を中心に、毎日の洋服を選んで着ていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜によっては、テーブルに新聞紙を広げ、利用者数人の手づくりのはかま取りや芋づるの皮むきなどを実施。それを調理、提供することで季節感を味わっていただくようにしている。また、誕生日や正月、クリスマスなど、イベントごとに工夫した食事をお出ししている	利用者が楽しみにしている食事は、利用者の嗜好を聴きながら、職員が交代で調理し、利用者の好みや栄養バランス、形状に配慮して、食べやすい料理を提供し、楽しい雰囲気の中で、利用者の食欲増進に繋げ健康の源になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な雰囲気や大事にするため、食事内容は複数の女性職員が毎日替わりで食事作りを担当し、それぞれに応じた量、食事形態を提供している。食事量、水分量は24時間を通して記録し、体調や気候によって調整するようにしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所にはそれぞれの利用者の苗字を書いたボックスに、各々の口腔ケア用品やハンドタオルを用意し、「自分の持ち物」を使って「自分で口腔ケアや整容を実施する」ことを継続している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケース記録を生かした個々の排泄パターンを参考に、起床直後、毎食事前、就寝前、夜間の排泄誘導を実施し、できる限りトイレでの排泄を支援。もしくはおむつやパッド内の排泄汚染の時間が短くなるよう、パターンに応じた確認を行うようにしている	利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導で、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間は、利用者の希望を聴きながら、トイレ誘導やおむつ、リハビリパンツ、パットを利用者に合わせて使用し、快適な暮らしの支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前と午後に、必ず30分以上のリハビリ体操を取り入れ、椅子や車いすに座ったままで出来る安全な軽運動を実施。また、食事以外でもお茶やコーヒーなど、まめな水分提供を行い、便秘の予防を心がけている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状況に応じて、週に2回の入浴支援を中心に、病院受診や体調に応じ、臨機応変に対応している。特に、曜日や時間でのごくりは無く、場合によってはシャワー浴、清拭を導入し、清潔保持に努めている	入浴は利用者の希望や体調に合わせて週2回支援し、湯船にゆっくり浸かってもらい、利用者と職員が対面で会話できる楽しい時間になる様に取り組んでいる。入浴が困難な利用者は、清拭や足浴に変更し、清潔保持と健康チェックが出来るように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食前後の過ごし方は、基本的には大きなイベントは行わず、口腔ケアや排泄誘導を中心に、その後は空調を整えた個々の部屋で思い思いの過ごし方を支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理はすべて看護職員が管理し、健康を維持するための定期薬の他に、体調の変化に応じた頓服の服用も、かかりつけ医と相談しながら服薬支援をしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々違う好きな遊びや得意な趣味などを一緒に楽しむことが出来るように、職員が中に入るようにしている。女性の中では洗濯物を畳むことを日常の役割とする方や、決まった時間に体操を実施するリズムを大事にしている方もいる		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍による感染予防もあり、無防備に外出することは控えているが、必要な冠婚葬祭や天候のいい日の少人数での散歩や庭の散策など、屋外での気分転換ができるように努めている	コロナ対策以前は、花見やバスハイク、ホーム周辺を散歩する等、利用者の気分転換に繋げていた。家族の協力を得て、行きつけの美容院に出かけたり、自宅に帰る等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいたが、現在はコロナ禍の中で自粛している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、外出が少なくお金を使う機会が無いが、病院受診時に店に寄り、本人のお金でおみやげを選んで購入することもある		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話や手紙は、ほぼすべて本人につなぐようにし、昔からの個々のコミュニティを大事にしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室やホールだけでなく、廊下や玄関にもエアコンを配し、急な温度差による不快が無いようにしている。また、ホールの大きな壁には、日めくりの手作りカレンダーを下げ、生活感を損なわないようにしている	南向きのリビングルームの窓から、中庭の松やつつじ、季節の花を眺めながら、季節の変化を利用者の五感で感じ取っている。館内は全館にバリアフリーを設置し、音や照明、温度や湿度、換気に注意し、清掃が行き届き清潔で利用者が穏やかに暮らせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様、スタッフも含め談笑したり、食事をするための4人掛けのテーブルや、車いすを利用しながらゆっくり個別で食事がとれるオーバーテーブル、また、ゆったりと腰かけてテレビを鑑賞するソファ席などを提供している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室内のしつらえは、本人が使い慣れた私物や、家具を持ち込む方が多く、本人の希望とADLと動線にあわせてベッドや棚を配置するようにしている。仏壇や写真を持ち込み、「自分の部屋」として過ごしていただいている	利用者が慣れ親しんだ家具や寝具、生活必需品や家族の写真等を持ち込んで、生活環境が急変しないように配慮し自宅と違和感なく、利用者が安心して穏やかに暮らせる環境整備に取り組み、明るくて清潔で居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	駐車場から施設内まで全てバリアフリーで、トイレや居室は、全て途中からゆっくり閉まる扉で、勢いよく閉めても指などを挟まないようになっている 生活の中で移動が困難なところが無いよう手すりを設置し、玄関やトイレやリビングへの移動を安全にしている		